

第22回行徳内陸性湿地再整備検討協議会

の開催結果（概要）について

- 1 開催日時 平成19年12月18日（火） 午後1時30分から
- 2 場 所 千葉県森林会館 第4会議室
- 3 出席者 委員11名
- 4 議事概要

議題1 行徳湿地再整備に係る調査について

(1) 前回の第21回協議会で指摘のあった事項について説明を行った。

- ・ 行徳湿地内導流堤の断面形状について
- ・ 深み埋め戻しの安定について
- ・ 汽水域の形成について

<主な意見>

- ・ 導流堤に生える樹木について、堤体の安全性上どこまで大きくしているのか。
- ・ 海水交換促進、深み埋め戻し、汽水域形成の検討については、先ず、それぞれ単独で検討を行い、その後、相互の関連性について検討したほうがよい。

<まとめ>

- ・ 導流堤改修後の維持管理について、樹木の問題等に対する管理スケジュールを作ること。

(2) 平成19年度行徳湿地再整備事業の実施状況について説明を行った。

- ・ 湿地内生物生息環境調査について
- ・ 千鳥水門整備設計について
- ・ 淡水導入施設整備設計について

<主な意見等>

- ・ 千鳥水門の増設位置は既設水門の右又は左が望ましい。
- ・ 千鳥水門の増設幅は3mとして検討を進めることで了解。

議題2 行徳湿地と猫実川をむすぶ開渠プラン

蓮尾委員より目的、位置、問題点等について説明が行われた。

<主な意見>

- ・ もう一箇所開けたときの湿地環境に与える影響はどうなるのか。
- ・ 水路幅2～3mでは効果がないのでは。

<まとめ>

- ・ プラスの効果があるのか、もう少し議論する必要がある。資料を集め引き続き議論を行う。

第 22 回 (H19.12.18) 行徳内陸性湿地再整備検討協議会 資料 1

行徳湿地再整備に係る調査について

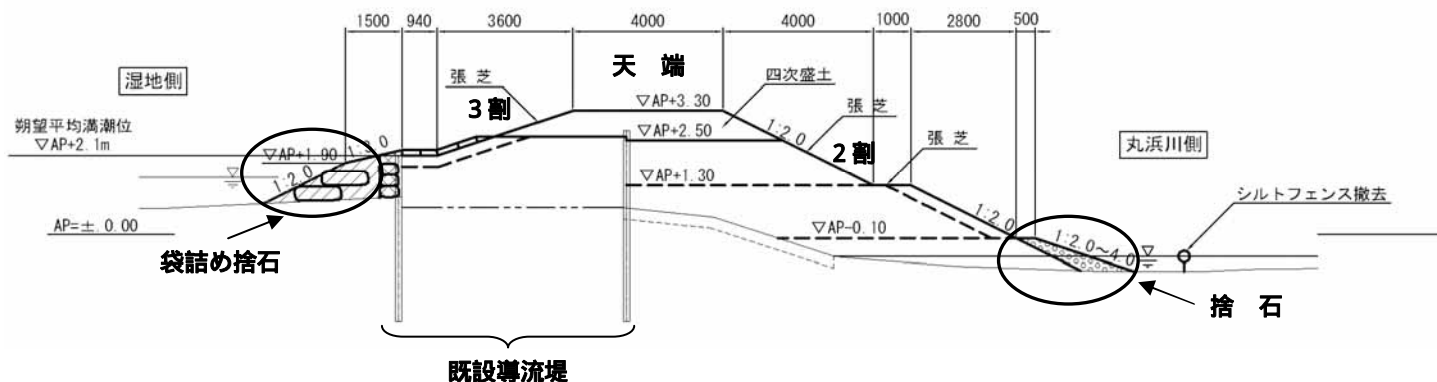
千葉県環境生活部自然保護課

1. 行徳湿地内導流堤の断面形状について

< 基本の断面形状 >

- ・ 天端幅は、湿地側になるべく影響を与えないよう維持管理上必要な 4 m とする。
- ・ 丸浜川側は、安定勾配である 2 割で盛土を行い、中段には 1 m 幅で抑え盛土を行う。法尻部に捨石護岸を行う。
- ・ 湿地側は、生物の生息環境に配慮し自然材質である袋詰め捨石により 2 割勾配で根固めを行う。既設導流堤内は 3 割勾配により法面を形成する。

標準横断面図



< 全体的な断面の考え方 >

単一的断面ではなく



変化のある断面に

丸浜川側
法尻捨石部分の勾配を 2 割から 4 割の間で変化をつける。
湿地側
袋詰め捨石に覆土することにより自然な変化が生じる。

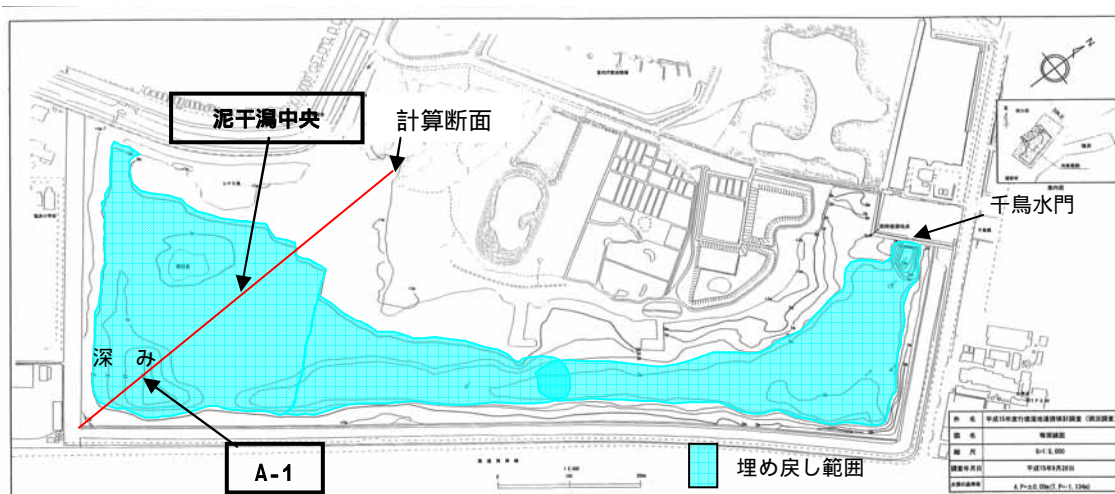
2. 深み埋め戻しの安定について

(1) 沈下計算

沈下計算は、埋戻し仕上り高最大 (A.P. + 1.0m) の領域で行うものとし、湿地の南角から泥干潟の中央を通過して北のウラギク湿地へ抜ける断面 (図1参照) を計算断面としてモデル化する。

埋戻し地形は埋戻し完了時点の地形とする。

図1 沈下計算の計算断面位置図



(2) 計算結果

計算結果を表1に示す。全沈下量 (即時沈下 + 圧密沈下) は、A - 1 直上部で 61 cm、泥干潟中央で 41 cm である。

シルト層圧密度 95% に要する日数は約 700 日 (約 2 年) である。

表1 埋戻し地盤沈下計算結果

沈下量		計算位置	
		A - 1 直上部	泥干潟中央
沈下量 (cm)	砂層の即時沈下	6	6
	シルト層の圧密沈下	55	35
	計	61	41
シルト層の 95% 圧密に要する日数		約 700 日	

沈下計算に用いた地層構成は、平成 12 年度に実施された「行徳内陸性湿地帯連絡水路解析検討委託に伴う地質調査業務」において、千鳥水門前面で行われたボーリングのデータ、力学的試験結果は平成 18 年度に実施された「行徳湿地連携検討調査 (地質調査) 業務」において、導流堤設計のために行われたボーリングのデータを参考としている。

3. 汽水域の形成について

(1) 過去のシミュレーション結果 (淡水導入)

(H15 行徳湿地連携検討調査 (影響予測調査) 業務委託)

1) 淡水導入地点

千鳥水門側 中央部湖底 野鳥観察舎前

2) 導入量

・それぞれの地点において $0.1 \text{ m}^3/\text{s}$ を導入。

参考 [現況 : $0.006 \text{ m}^3/\text{s}$ ($500 \text{ m}^3/\text{日}$)]

3) 影響予測結果

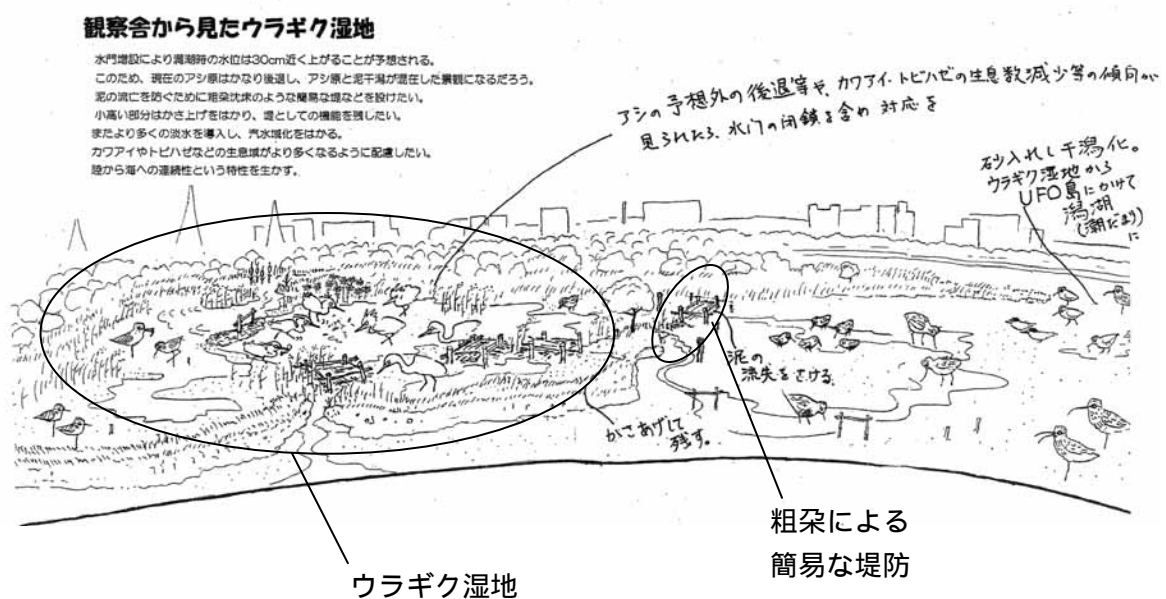
- ・千鳥水門側及び中央部湖底が導入地点の場合には、淡水の滞留時間が比較的短いため、淡水導入による塩分濃度の低下量は、1 psu 程度と小さい。
- ・野鳥観察舎前が導水地点の場合には、湿地全体の平均で 2 psu 程度の塩分濃度の低下が生じ、野鳥観察舎周辺では一時的に河口域と同様の 20 psu を下回る程度まで低下する。
- ・塩分濃度の低下は局所的な現象に留まっている。

(2) 協議会における汽水域に関する意見

- ・千鳥水門を拡幅した場合、ウラギク湿地が日常的な潮間帯となる。
- ・潮溜まりが残るような個所。
- ・淡水が堰き止められるような個所。

(3) ウラギク湿地の将来像

< 第 21 回協議会資料 >



4.平成19年度行徳湿地再整備事業の実施状況について

(1) 湿地内生物生息環境調査

施設整備に係る湿地環境への総合的な影響評価及び順応的管理による整備促進に資するため、評価等に必要となる、主に生物生息環境についての調査・分析を行う。

1) 委託業務期間

8月から3月

2) 業務内容

潮間帯の中間点と最下点における生物生息状況調査(8月) 陸域部におけるカニの生息状況調査(8~10月) セイゴ水道等におけるトビハゼの生息状況調査(8月) UFO島及び鈴ヶ浦におけるカワアイの生息状況調査(8月) 海域部において水温、塩分、流向流速等の水環境調査(8月、12月)を行い、今後実施される施設整備により影響を受ける湿地環境を中心に、現況の把握を行う。

(2) 千鳥水門整備設計

行徳湿地と三番瀬の海水交換促進のため、これまでの調査結果を踏まえた千鳥水門の拡幅(増設)についての具体的な整備工法の検討を行う。

1) 委託業務期間

9月から3月

2) 業務内容

既存資料と現地状況を十分に踏まえ構造設計、施工計画、景観検討、モニタリング計画検討等を行う。

3) 水門位置及び規模

位置：既存千鳥水門の東側(千鳥橋側)

規模：水門幅3m

(3) 淡水導入施設整備設計

湿地内水環境の多様化に向け、既存水源からの安定的な淡水導入増量及び将来の新たな水源からの淡水導入を踏まえた水路、浄化池等の淡水導入施設の整備について具体的な工法の検討を行う。

1) 委託業務期間

11月から3月

2) 業務内容

既存資料と現地状況を十分に踏まえ流量及び構造設計、電気機械設備設計、下水処理場からの淡水導入検討等を行う。

行徳湿地再整備に係る調査 個所図



● : 淡水導入 (H15 シミュレーション) 地点

行徳湿地と猫実川をむすぶ開渠プラン

三番瀬再生計画では、行徳湿地に関する課題として、海水の流通をよくする 淡水の導入をはかる 深みを浅くする の3点が挙げられています。

このうち、海水の流通のため、千鳥町付近にある千鳥水門を拡幅(増設)することについては具体的な計画が挙げられていますが、三番瀬に直結する暗渠水路の開渠化については、湾岸道路とR京葉線があることから、具体化はむずかしいとされています。京葉線地先の市川市市有地の部分については、景観上の要請もあり、開渠化には難点はないものと思われます。しかし、この部分の開渠化のみでは行徳湿地への影響は少ないでしょう。

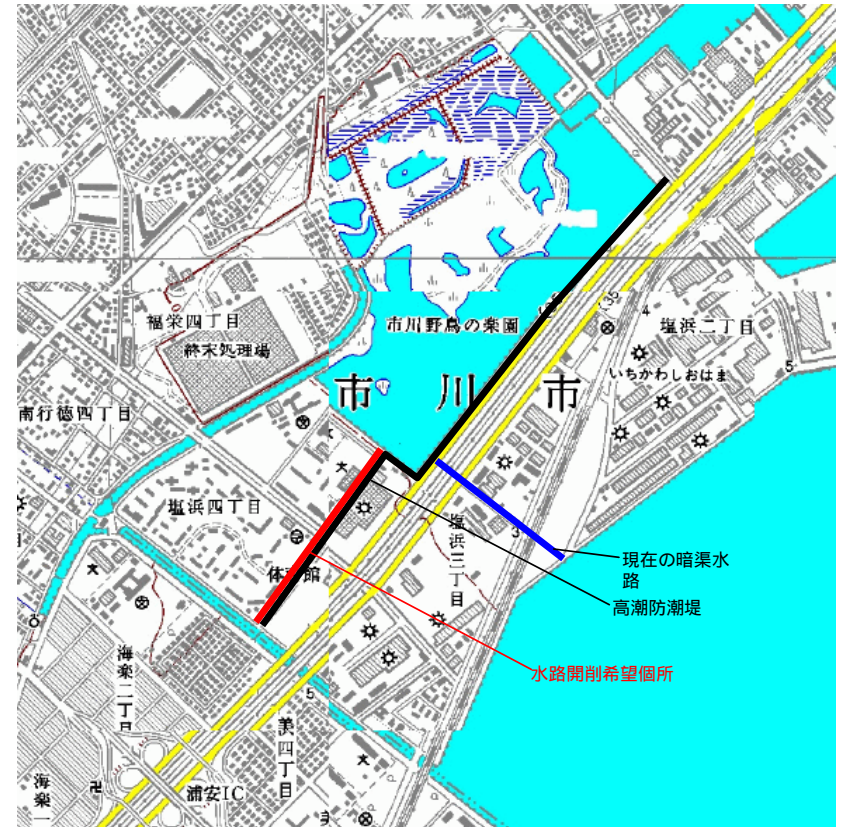
行徳湿地での海水の流通をよくするためのプランとして、第19回の再生会議時に湾岸道路と平行した水路の造成について発言しました。遅くなりましたが、提案内容について説明させていただきます。

位置 市川市塩浜4丁目到高潮防潮堤内側の緑地
 緑地の幅は約10m。防潮堤のすぐ内側は幅約3mの管理用地(通路)
 緑地の全長は約600mで猫実川に至る。
 ここに幅2~3mの水路を設けて行徳湿地と猫実川の海面をむすぶことはできないだろうか。

難点(水路開削希望地内の構造物)

- A 中央部の30m道路
- B 猫実川にかかる水管橋の橋脚
- C・D 行徳湿地隣接の吉野工業所へ電力を供給している高圧鉄塔2基

これまで検討されていないプランですので、これが猫実川や行徳湿地、また三番瀬の環境や生物にどのような影響を及ぼすかといった基本もまだわかりません。検討のためのはじめの一步としてご覧下さい。



行徳湿地(南門)から見た緑地

D 高圧鉄塔(吉野工業所への引込塔)

A 30m道路

塩浜体育館付近から見た緑地

B 水管橋の橋脚



C 高圧鉄塔

道路脇の立札

